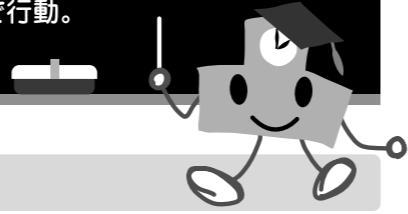


# 中学校の事例 南区 常盤中学校

## プロバスケットボールチームのキャンペーンがきっかけ。収集活動の継続で環境意識が変化。

環境問題での諸外国の格差について学んだことにより、自分たちのできることを考え、ペットボトルキャップの収集を開始。修学旅行の際にも、環境に配慮し「もったいない」の心で行動。



### はじめに 環境格差問題の学習から行動へ

本校ではペットボトルキャップの収集活動を行っている。きっかけは、平成19年度の2年生が環境についての学習の中で、環境問題における各国間の格差問題について学んだこと。先進国が発展途上国へごみを輸出し分別させている現状、劣悪な環境の中で命が失われていくという、フィリピンのごみ山の問題などを知り、自分たちのできることを考えるようになった。募金、節電、節水など様々な意見が出る中で、プロバスケットボールチームのエコキャップ運動のキャンペーンを知ったことから、ペットボトルキャップの収集活動がスタートした。

また、そのチームの選手が、本校の部活を見に来てくれたことなども縁となっている。



ペットボトルキャップ回収ボックス

### 内容 宿泊学習で環境に配慮したホテルを選択

キャンペーンへの協力としては、平成20年度の修学旅行の際に1日一人2本のペットボトル飲料を飲んでおり、このキャップを持ち帰ることで4日間分960個集めることができた。その後、本校独自の活動として、ペットボトルキャップ収集を文化委員会が引き継いだ。各クラスに啓発ポスターと収集用のボックスを設置し、毎月収集ボックスの中身を回収。まとまったものは年に一度、NPO法人に回収してもらっている。

平成22年度の2年生の宿泊学習の時には、宿泊先として環境に配慮しているホテルを選定し、夜にはこのホテルの方による講演会も開催した。また、この時に生徒たちが持参した飲み物のキャップもエコキャップ運動のために持ち帰った。

このほかにも、2学期には清掃工場の方をゲストティーチャーに招き、「自分たちが住んでいる恵まれた環境を守ろう」という話をしてもらった。これらの取組により、各々が環境について考え、意識を高めている。

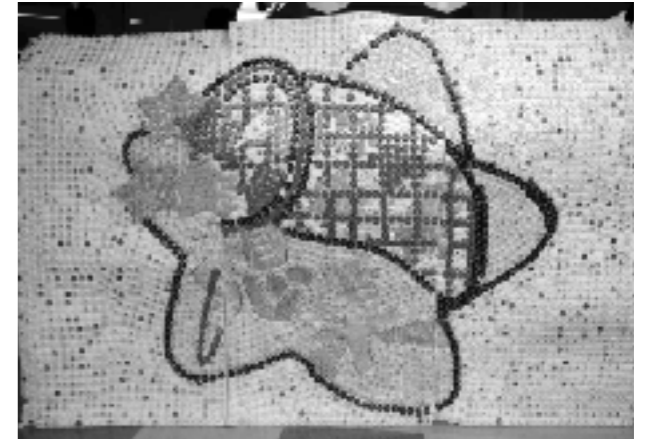


講演会のようす

### 今後 本質的な改善策を考える力を

環境に対して自分たちにできることは何かを考え、エコキャップの収集活動を通じた自発的な行動で環境意識が変わり、リサイクルやリユースの意識が強くなった。「もったいない」という考えを常に念頭に置き生活することで、水の出しっぱなしや、給食の食べ残しも減ってきている。

ペットボトルのキャップを集めるのはよい取組だが、キャップを集めるために飲物を買うなど、本末転倒にならないように気をつけたい。また、集めて終わりではなく、最終的には集めなくてよい方法を選んでいくことが大切である。お茶なら煮出ししたり、水だしするなど、ごみを出さない工夫を実践できるように考えていきたい。



ペットボトルのキャップを使ったモザイク画

#### 宿泊学習での環境に関する講演会について

平成22年度の2年生の宿泊学習では、宿泊先ホテルも環境に配慮しているホテルを選択し、滞在中には、ホテルの方に「リゾートホテル経営と地域環境との共生」と題して講演会を開催してもらった。このホテルは、「自分たちで出した廃油は自分たちで加工し、消費」することを掲げている。

ホテルでは大量の調理油が消費されるが、その廃油をリサイクルしバイオディーゼル車輛3台の燃料として使用したり、粉石けんにも加工したりしている。さらに、修学旅行で来た生徒たちに植樹をしてもらい、思い出を残しながら「緑化の推進・温暖化防止」につながる活動にも取り組んでいる。

広げよう  
つなげよう  
環境学習の輪

実施校から  
メッセージ

環境についての情報がいろいろある中には正確ではない情報もあります。すべてを鵜呑みにしないで自分で判断する力を養ってほしいと思います。生徒たちのちょっとした好奇心を見逃さず、生徒の意欲・関心を教師が後押ししてあげることが大切だと思います。